

Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

臨時増刊号

平成26年5月7日

編集・発行

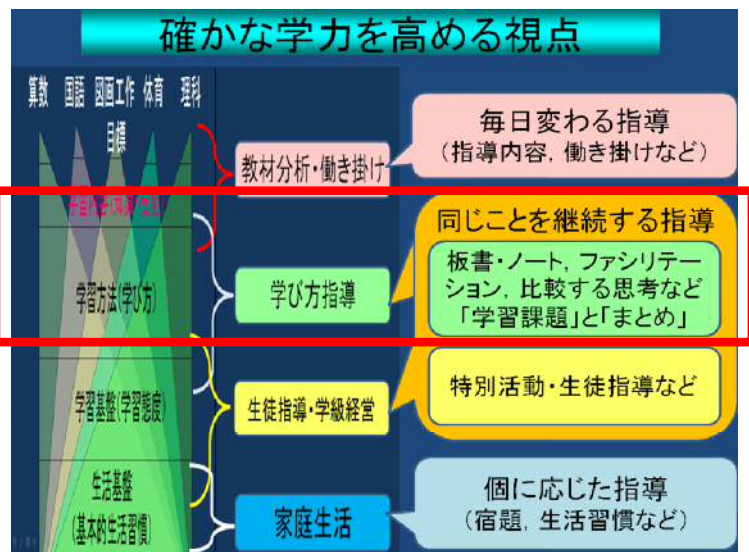
学校支援課 広報担当

授業改善戦略フォーラムをもとに、さらに一歩前へ

4月24, 25日と2日間にわたり、各校から研究主任の皆さんからお集まりいただき授業改善戦略フォーラムを開催しました。

全体会では、右図にあるように確かな学力を高める視点について、とくに「学び方指導」については、全校体制で継続的に取り組むことの大切さを確認しました。

さらに、授業において「学習課題」を明示して授業の見通しを示すこと、課題と正対した「まとめ」をすることが、学力向上に結び付くことを全国学力・学習状況調査の結果をもとにお話しました。



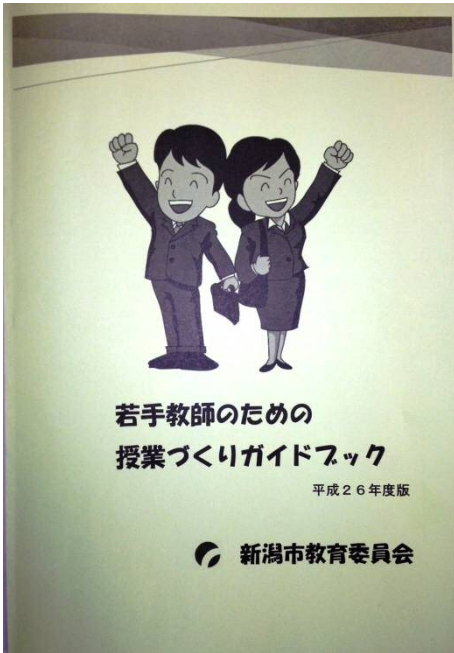
グループ協議では、各学校から今年度の研修計画における授業改善に向けた具体的な取組を紹介し合いながら、「学習課題とまとめ」「学校ぐるみの学び方指導」についての実態や研修への位置付け、具体的な取組や進めていく上での問題点などについて、話し合いをしました。研究主任の皆さんからは、各校の実践や様々な視点からの考えを数多くお話しいただき、有意義な情報交換の場となりました。

下記にあるようなことが、多くのグループで話し合われていました。今後、各校におかれましては、全校体制で何を共通に取り組むか、計画している組織や体制で取り組めるかなどについて確認する際に、参考にさせていただきたいと思います。

- 「学び方指導」という視点で全校体制で取り組み、どの教科等にも生かされるものがあるか。
- 「学習課題」と「まとめ」を行う授業は、「日々を行うことで子どもに力が付く」ということを職員がどれだけ意識しているか。研究授業の時だけではだめである。
- 「学習課題」について、設定の仕方を含めどのように研修を進めていけばよいか。

※裏面に「若手教師のための授業づくりガイドブック」(新潟市教育委員会 平成26年度版)から、学習課題を立てる際に役立つ「構想カード」などの情報を掲載しました。

- 取組が中途半端では、子どもが変容したり、子どもに力が付いたりしない。やり切るためのシステムやその評価をどのようにすればよいのか。(限られた条件の中での役割と分担)



○「若手教師のための授業づくりガイドブック」

- ・授業改善のポイントとしてお話ししている「学習課題」や「まとめ」についてより詳しく示したり、本時の授業の全体像をイメージするための「構想カード」を掲載したりするなど、本年度、新しい内容に改訂しました。
- ・各校に1冊は必ず配付されています。新潟市立総合教育センターのホームページから、全ページのファイルをダウンロードできます。

★授業をどのように構想し、指導案に作り上げていくかについて、具体的に示しています。授業の基礎・基本について、確認し合う研修にも活用できます。

2 本時の構想を立てよう

○「さあ、本時の計画を書くぞ〜!」と机に向かってもなかなか書くことはできません。指導案を書く前に行う大切な作業があります。それはその授業（本時）の全体像をイメージすることです。これを**本時の授業を構想**と言います。

本時の授業を構想するポイントは5つあります。

【本時の構想のポイント】

その1 本時のねらいの設定と子どもの実態把握・分析
 学習指導要領解説や教科書を基に、本時のねらいを設定します。その次に、ねらいに関連して、前時までの既習事項や子どもがつまづきそうな所など、授業前の子どもの実態を把握し、その原因を分析します。

その2 まとめの明確化
 ねらいに整合した目指す子どもの姿（まとめ）を子どもの言葉で具体的にイメージして決めます。

その3 学習課題の設定
 目指す子どもの姿（まとめ）と正対した学習課題「〜だろうか?」を設定します。

その4 学習課題を生み出す活動や教材提示考案
 「学習課題を生み出すための手だて」として、活動の組織や教材提示の工夫を考えます。

その5 学習課題解決のための手だて考案
 学習課題と正対したまとめに至るまでの「課題を解決するための手だて」として、追究する活動や働き掛けを順序立てて考えます。

★**☆構想カードを使ってみよう☆**

授業を構想するとき便利なのが「構想カード」(p.25資料2)です。指導案を書く前に、構想カードにポイントを書き込んでおきます。この構想カードを指導案をつくるときにそばに置いておくと、一貫性のある指導案になります。

書く順番を①→②→③→④→⑤とすると構造化された確かな学びの授業となりますよ。④により学習課題をもたせることができるか、⑤の手だてで、課題解決まで到達できるか・がポイントです。

全体のイメージをつくっておくのが構想カードなんだよね。

構想カード

・ねらい ①
・子どもの実態

↓

学習課題を生み出す活動や教材提示 ④

↓

学習課題 ③

↓

追究する活動や働き掛け ⑤

↓

まとめ ②

← ガイドブック P18 より

↓ ガイドブック P25 より

資料2 構想カード

構 ねらい ①-1

想 -----

どんな子どもに（子どもの実態） ①-2

指 ↓

導 ↓

学習課題を生み出す活動や教材提示 ④

学習課題 ③

追究する活動や働き掛け ⑤

まとめ ②

中学校の授業改善戦略フォーラムの分科会の情報交換において、右上の構想カードを全職員で活用し、「学習課題」と「まとめ」を板書していく取組を全校体制で進め、研修を深めていくとお話しされた学校がありました。

